

会 議 録

会議の名称	平成30年度 第2回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成30年(2018年)11月13日(火)15時00分~17時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 3階集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	舟岡 直子 尾崎 理人 吉岡 一美 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 有本 恵子	
	事務局	吉田教育委員会事務局長 北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 萩原岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長 伯井岡町図書館主査	
	その他	欠席：渥美委員	
議題	<p>1. 委員の紹介</p> <p>2. 中央館構想と豊中市立図書館における施設配置のあり方について</p> <p>3. その他</p>		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成30年度（2018年度）第2回図書館協議会 記録

日時：平成30年（2018年）11月13日（火）15時～17時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 舟岡 尾崎 吉岡 天瀬 松田 岸本（委員長） 瀬戸口 有本
事務局 吉田 北風 須藤 虎杖 松井 萩原 山根 永島 伯井

開会

資料確認

委員紹介

●委員長

図書館協議会の運営方法について、豊中市では原則として審議会を公開し、本日も2名傍聴に来られている。傍聴は10名を定員としているが、超えた場合は状況を見て私の方で判断させていただく事によろしいか。傍聴の方にはアンケートをお願いしており、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容は報告させていただく。前回会議録については、事前に送付されたものにご意見等はなかったのので、概要として発言者については個人名を掲載せず「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。それでは、議題2「中央館構想と施設配置のあり方について」事務局から説明を。

●事務局

図書館協議会は通常年3回だが、今年度は1回目が外部評価の報告が中心となり、中央館構想については実質今回からとなる。今回を入れて後3回の予定とさせていただきたい。3回目が1月、4回目が3月の予定。

昨年度は中央図書館の機能についてご議論をいただき、中央館という単体ではなく、市全体のネットワークを考えた上での議論が必要であるとのご意見もいただいた。今年度は、中央館を核とした施設配置を考えるうえで、中央館と地域館・分館それぞれの機能分担のあり方や踏まえるべき点等について、ご議論をいただきたいと考えている。

中央図書館構想の策定が、平成33年度から32年度に1年早まった。今年度はその1年目として協議会で引き続き議論いただき、来年度以降は一般の市民からもご意見をいただくような場を作りながら、それらの意見を踏まえて教育委員会を中心として検討を行い、基本構想を策定する予定としている。

配布資料「中央館と地域館・分館の機能分担案」は、図書館のサービスや機

能について区分けをし、現状と課題がどうなのか、課題を改善するために地域館・分館機能と中央館機能はどうあるべきかを示したもの。前年度ご議論いただいた内容を加えて作成した。それぞれの機能やサービスを考える時に留意すべき視点やめざすべき事を、右端の「その他議論にあがったこと」にあげている。

例として、1枚目は「全般」として、運営体制、人員体制、PR・発信、リスクマネジメントの4つについて現状と課題をあげている。地域館・分館は、最前線として利用者のニーズを把握し中央館にフィールドバックする役割、中央館はオール豊中としての企画立案、方針決定、それを発信していく役割を考えている。人員体制では、地域館・分館がうまく機能するようなフォロー体制によりサービス改善に繋がるのではないかと考えている。

●委員長

これまでの議論を3枚にまとめ「全般」、「資料収集・レファレンスサービス・多様な学習機会の提供」、「利用者に応じた図書館サービス・市民協働事業の促進・職員」となっている。1月、3月と後2回で協議会としての基本的な考え方をまとめる。今日は委員の皆様には様々な観点からご意見を出していただき、ページ毎に進めていきたい。最初に「全般」について、中央館を考える時に個々のサービスではなく図書館全体としてどういった機能を中央館に期待できるかご意見お聞かせください。

●委員

全体としての現状・課題に対する中央図書館機能について概ね異存はない。PR・発信について、環境が変化し図書館に対しての住民のニーズが変化する中で、今までやってきた事は勿論重要だが従来の図書館サービスだけでは十分ではないのではないのか。今の出版状況やネット環境等との兼ね合いで、新たに図書館でしかできない事を考える必要がある。今までも課題解決など様々な取り組みを進めているが、現状の将来的な展望を持ちつつ、図書館の方から何か提案型のサービスをしていく事が実際にはPRに繋がる。レファレンスサービスに関連すると思うが、書店やインターネットではできないような事を、見せ方の部分含めてPRしていく、特に中央館がベースとなり進める事を期待する。

●委員長

例えば、従来のように図書館でやっている事を一生懸命PRするのではなく、もう少しそれぞれの利用者に届くような、図書館に来たらこんな事ができるというメッセージがPRにもなるという事か。広く伝えるのではなく、ター

ゲットに届くような工夫が必要かと思った。そのためには、多分利用者のニーズに対し、単館で応えるのではなく、まとめてすくい上げていく仕組みが必要で、それを整理し豊中の図書館全体として一つのメッセージがその人達に伝わる、と言った受け止め方でよろしいか。

●委員

委員長の説明に関して、特に外部評価でも同様の意見があり、ターゲットをある程度絞り込んでピンポイントでPRしなければ、図書館に対して関心の低い住民やあまり図書館に来たことがない人にとっては、響かないのではないのか。あえて絞った形でやっていく、特にニーズの把握を何らかの形でやっていく事で効果的なPRが可能になっていくのではと考えている。

●委員長

豊中の図書館全体としてニーズをきちんとすくい上げた上で、ターゲットをピンポイントで絞ってニーズに対応したメッセージの発信が今後必要だろう。

●委員

この議論が始まった時から、中央館に集中させる事も必要だが、現在地域館で取り組んでいる事や地域館でのニーズ把握等はとても重要だと考えている。豊中全体のニーズ把握よりも、地域館4館が特色を持ち、それを活かした取り組みを進める現状の形はいいと思っている。それが1館のみにならないようなシステムが中央館を通じてできればいい。子育て・DVであれば野畑で力を入れているが、庄内でニーズがあれば「野畑に行ってください」ではなく、同じサービスが庄内でも受けられるとよい。特化しているのは良いが、全市どこでも同じサービスが受けられるシステムが中央館を通じてできあがるのがあれば素晴らしい事だと思う。地域隅々から上がってくる問題を全部中央館で拾うのではなく、地域館で対応しながら、それをみんなで共有できる形がいいと思う。

●委員長

地域館・分館機能の欄に利用者ニーズの把握が位置付けられている。一番身近なところでサービスに携わっている図書館職員が肌で感じる事が、一番実感のあるニーズ把握となる。豊中全体の共有という点では、ニーズを全体のものにしていく努力によって、経験の交流ができる。これらが中央館にフィードバックというところに表れる。PRについては、お二人の意見を基にして捉えていけば、ほぼ見えてくる形があるのでは。

●委員

PRという視点で、ご当地検定の図書館バージョンを作ってはどうか。クイズや検定が好きな人も取り込めて、来館しないと回答できない問題を入れておく事で図書館に足を運んでみようと思う人もいる。本質的な取り組みではないが、興味を持ってもらえると思う。

●委員長

ゲーム的な要素も取り入れて、各図書館を回るスタンプラリーを実施している図書館もある。

●委員

検定は、毎回問題が変わる、さらに上の点数をめざすなど、1度受けた人も挑戦でき、その試験を通して話題性にもなる。百点を取ろうと思えば図書館に来ざるをえなくなるという効果もある。スタンプラリーだと1回限りになってしまう。

●委員

こども園に勤めているので、その立場からの意見を。こども園ではたくさんの絵本の読み聞かせをしている。庄内地区では、親子でゆったり本を読む機会が少ない等の課題もあり、園では図書館から絵本を毎月借用したり、図書館に出向いたりしながら、絵本に触れ合う機会を多く作るようにしている。1歳児でも、タブレットを触るように絵本をめくる子どもがいて、やはり絵本離れを感じる。人の声でやさしく子ども達に絵本を読み聞かせたいという思いがあり、図書館の職員による講演や、講師を招いて絵本の楽しさを話して頂く保護者講演会も行っている。地域には、庄内図書館を利用する方も多く、中央までは足を運ばない方もたくさんいるので、分館でも楽しめるような取り組みや、大型スクリーン等で絵本を紹介する取り組み等があるとありがたい。

●委員

中学の校長をしております。豊中市では、地域の担当館（地域館）が決まっていて、小中学校の図書館は学校である程度の資料を持ち、学習で必要になればそれに応じた資料を担当館を通じて市内の公共図書館を含めて送ってもらう形で授業を進めている。配布資料から、中央館と地域館の関係は、担当館と学校図書館の関係のようなものかと思う。地域館がある程度資料を持ってそれぞれニーズに応える。応えきれない部分は中央館が中心となり、学校図書館が必要な本を担当館に要請して送ってもらうような形で、臨機応変に効率よく機能

するような資料活用を想定しているかと思う。ただ、学校の場合は学習過程に沿った指導計画があり、いつどんな資料が必要かある程度想像がつく。事前に学校司書が担当館に要請して資料を準備する事が可能だが、公共図書館では利用者が必要に応じて来館し必要な資料を求めるため、事前に資料を収集するのは難しいだろう。市民のニーズを拾えるような状況を作れるのであれば、今、学校図書館がおおいに助かっているのと同様に、中央館・地域館という関係が機能的に可能ではないか。

●委員長

中央館の司令塔的な役割には、市内全体の学校のカリキュラムについて図書館も加わって調整・相談していくという事も含まれてくるのではないかと思う。例えば、同じ時期に学校で必要な資料が重なれば、全体で少し調整して効果的に資料を活用できるかもしれない。対象を豊中市の市立小中学校全体として考えれば、今の地域館と学校の対応とは異なった形の教育ができるかもしれない。中央館という中では、豊中全体で対象も豊中全体の学校という形で議論をする事も可能になってくるのではないか。

●委員

3年生で図書館に行く単元があり、地域の図書館がどんなところか、学校の図書館と似ている点をあげ、配架の勉強もする。学校で子ども達が図書館を利用して作った作品や調べた時の掲示物等を、子ども達の了解の元、一定期間公共図書館で展示する取組みも行っている。こういった学校と地域館の繋がりは今後も大事にして欲しい。例えばお話の絵を描こう等は十分図書館と繋がる取組みで、お話を読んでイメージして描いた自分の絵が図書館に掲示されているとPRにもなり中々図書館に行かない子ども達も行く。PRという観点からも、図書館でやって欲しい事を子ども達に聞いてみる、学校にアイデアを考えてもらう等すると、学校もまた活性化すると思うので両方繋がっていくと思う。

●委員長

今日はまとめる回ではないので、いろいろなご意見を出していただくのがありがたい。

●委員

市民サービスが豊中市内どこでも等しく受けられるように、図書館サービスも豊中市内どこでも等しく受けられる理想に向かえばいいと思う。配布資料の中で言葉の問題が気になる。中央図書館機能の“オール豊中”について、もう

少し具体的に書いてもいいのでは。ざっくりとした言葉の共有で意味や感じは分かるが、文章でもう少し書いた方が意思疎通をはかり易いのではないのか。

リスクマネジメントのところで、災害時という文言も必ず入れておかなければならない問題の一つだ。事故発生時の初期対応は地域館が行い、司令塔的な役割は中央館が行うと分担が書かれている。勿論、災害もリスクに含まれるが、事故に比べて災害は長期的になる。そういう場合は司令塔である中央館が各関連部署との連携を構築していくと明記して頂くとより安心かと思う。

●委員長

災害時対応は人員体制とも関連する。日常的な応援体制に加え、非日常的、突発的な事が起こった場合に全体として応援体制を組んでいくにあたって、フレキシブルな人員体制が取れる形が整っていれば対応がしやすくなる。リスク管理では様々な災害対応・訓練が必要となる。単館ではなく全体で統一的な訓練体制が必要になる。図書館だけで対応しきれない事柄に他部局、他館と連携してあたっていく上で一本化された窓口も必要。司令塔的な役割の中に対外的な接点を作る役割も持たせる事になる。全般のところでご質問やご意見が他にありましたら。

●委員

市民が好きな時に来て欲しい資料を探すという先程のご意見について、市民の方にもこの時期に欲しいという予約ができたらいいい。読みたい本があっても今は読む時間が無い場合、本がすぐ届き貸出期間も足りないため予約をあきらめる事が多い。忙しい方では少し先に借りたいという事も多いのでは。対応が大変かもしれないが、例えば1ヵ月後、1ヶ月半後の予約があってもいいかと思った。

リスク管理で、災害の場合だと時間が長くなる。図書館施設で避難者の受け入れは可能だと思うが、出る際の対応が大変だろう。長期化した場合、避難している人も不安だし、この後の次の手続き、空き住宅の募集情報、役所との連携等、次に繋がる対応が必要になってくる。避難者がストレスなく前に進めるような対応が必要ではないか。

●委員長

ありがとうございました。地域の分館等とのバランスも含みながら調整をしていくために、中央図書館という役割を果たすセクションが当然必要となってくると思う。次に具体的な項目に入っていきたい。2枚目の「資料収集・提供・保存」、「レファレンスサービス」、「多様な学習機会の提供」についてご意

見、ご質問等伺いたい。

●委員

「資料収集・提供・保存」で、資料の分散化が現状の課題というのは理解できる。地域館・分館機能のところで、赤ちゃん向けの本、新聞の閲覧等に加え、史料（歴史の資料）の収集もお願いしたい。写真も含む史料をこれから残していかなければならないのではないか。最近、街並みや建物が壊され新しい建物に立ち代ってきている。アーカイブとして、昔の商店街の様子、地域の風景も収集していただければありがたい。勿論、昔の蔵が壊されるような事があれば、史料が出てきた場合は保存についても地域館で担っていただきたい。

「調べもののレベルは人によって違うが、どんなレベルに対しても満足度があがるようにして欲しい。」という文章は、「資料収集・提供・保存」だけでなく「レファレンスサービス」の欄にも入れたほうがいい。

「多様な学習機会の提供」では、学習成果の発表の機会が中央館機能に入っているが、先ほどの例えば子どもの絵を飾る等は中央館機能でなく地域館・分館機能で行った方がいい。

●委員長

アーカイブ的な機能では、地域の人達が参加して自分達の町の事を残していくため、地域の身近な人達の協力が必要になってくる。当然、地域館で取り組んでいくべき一つの課題になっていく。愛知川図書館（滋賀県愛荘町）の「まちのこしカード」は、地域の地蔵や祠等の写真を撮ってカードに書き、図書館に集めてくる試み。まさに地域の中に密着して、自分達の町の記録を残していく取り組みになっている。

●委員

地域には地域に詳しい方がおられる。学校では、昔の地域の勉強をする時に、地域の人に声をかけて詳しい人を探し、お話を聞き、考えた事をまとめたります。地域を知る学習のサポートを、地域館が担当となって図書館がする事もできるのでは。

学校では、ボランティアサークルの方に読み聞かせに入ってもらっている。ボランティアサークルの方は、必ず岡町図書館の読み聞かせ講座を受けるのがグループの決まり事になっている。講座を受けて学校の子供達の前で読み聞かせしている。講座の開催が地域でもあれば参加しやすい。中央館でも地域でもどちらでもできれば一番いい。

●委員

豊中市の学校の取組みとして、理科展を毎年夏休みに行っている。理科の自由研究を宿題等で課して、それを集めて、市の教育委員会中心になって表彰し、大阪府、全国の理科展に送る取組みもしている。学校の持っている資料と参考室の資料は格段に違う中で、今分散しているものを一箇所に集めると、児童・生徒の参考室のニーズはどうなるのか。例えば児童・生徒が近く地域館の窓口に行った時にそこで対応できるのか、逆により沢山の資料がある中央館を紹介した方がいいのか、機能がはっきり分かればよいと思う。現在3館の参考室が果たしている役割が地域館の対応になるのか、中央館に行った方がいいのか、具体的にはどういう形で出てくるのか気がかりなところ。

先ほどの郷土資料について、私は中学で社会科を教えていた。今から三十年前、初任が第一中学校で、校区の野口家文書が岡町図書館の参考室にあり、今は無理だが昔はコピーが可能であった。例えば宗門人別改帳や五人組帳等、教科書に載っているものが実際にあり、コピーを生徒に配って授業をした。自分の住む地域のものだと、教科書の写真だけとは違い生徒の食いつきが違う。そういう意味で授業を進めるにはありがたかった。やはり郷土資料は収集して欲しいし、貴重なものなので生徒自身が手で触れるという訳にはいかないが、東丘小学校の郷土資料室のようなレベルで、生徒が実際に目で見ると、手で触れるという事が、例えば中央館ができた段階で学校と連携して可能かどうかも含めて考えて頂ければありがたい。

●委員長

地域館のレファレンスをどういったレベルにするか、きちんと検討しておかないと中途半端なものになりかねないという懸念がある。

最近、外国の図書館は人の貸出も行っている。地域に詳しい人を図書館が人材バンクみたいにプールしておき、要請があればその人を紹介する。知識や経験を持った人を図書館から貸出すという事業。図書館の扱う資料、情報というのは先程の地域情報という点で見ると広がりを持つてくると思う。

●委員

今勤めている庄内地域では、高齢の方がたくさんいる。転入者は若い方が多いが、高齢の方は昔からの豊中の事をご存知の方が多い。このような素晴らしい人材の力を活用できればいい。

「資料収集・提供・保存」の地域館・分館機能に、赤ちゃん向け絵本と児童書があるが、それ以外に保護者に向けた育児書等もたくさん置いて欲しい。今はスマホで調べる方が多いが、じっくり読んでみたいという保護者の声もあ

る。趣味、季節や行事について調べるものを置いてもらえたらありがたい。スマホ等で図書館の蔵書検索も利用しながら、所蔵冊数は中央と地域館で違うが、どこでも借りられるようにして頂けたらありがたい。

地域の課題では、多文化共生・子育て支援に関連して、中国、韓国、フィリピン等、多くの外国人の保護者が園にいる。地域で外国の方との出会う場の一つに図書館があると思う。子育て支援・就労では、未就園児の保護者が子どもと一緒に利用でき、就労に繋がるような資料も活用できるとよい。

●委員長

これからの機能の中で、子育て支援も大切な働きになってくる。

●委員

資料について、例えば千里ニュータウンの資料や「豊中百景」等、個別のイメージ、単体でやっている印象がある。一部では盛り上がっているが、他の人は知らない等偏っている気がする。豊中は交通網も発達しているので市内どこでも行きやすい。イベントで、図書館が興味のある人の中に入ってうまく連携するような形を取り、図書館を中心にネットワークを紹介すると、資料の在りかも分かってくるのでは。豊中市は資料を持っていると思うが、資料のあるところが繋がらない。公民館の「文献を読む」等の講座にしても単発的で横の繋がりが見られない。

「多様な学習の機会の提供」に関しては、いろいろなイベントがあるが参加して終わりが多い。豊中市のイベントに参加すると必ずアンケートを書くが、そこで終わってしまい、続けたい時はどうすればいいのか分からない。次のステップに繋がるような講座が豊中市内にあるのではないかと思う。私自身は篠笛の5回位の講習会に参加して発表の場も頂いたが、続けたい場合どこで習えばいいのか分からなかった。続けるための講習会やサークルの紹介等の提案が欲しい。イベントの計画時に先の提案があればいい。リテラシー講座等でも同じ事が言えると思う。発表の場はあるが、実践の場で止まってしまう。

●委員長

講座やイベントを異なる図書館で順に行うシリーズ等あるのか。

●事務局

それぞれの地域で必要な講座を行っている。課題解決の医療健康情報は岡町図書館で特色を出しているが、ニーズはいろいろなところにある。連続ではないが、医療健康情報レクチャーとして年3回開催館を変えて実施している。ピ

ジネスゼミナールも年3回千里図書館を中心に各館で実施している。

●委員長

館毎の偏りを工夫していく中で、ある意味ステップアップも含めてやっていく事も必要かと思う。生涯学習では、様々なことを勉強できる機会を作る、勉強した結果身に付けたことを活かせる場所を提供する事が、社会教育や図書館に期待されている役割である。単なる発表の場ではなく、社会に還元する機会を積極的に作っていく部分が、より一層図書館にも期待される。

生涯学習情報の提供はまさに図書館の基本的な役割で、豊中全体で様々な機関が展開している学習機会を整理して情報提供する、これは図書館でなくてはできない仕事かもしれない。網羅的な提供ではなく、図書館が情報を整理して制御すれば、ステップアップの情報、内容やレベルに応じた情報提供も可能ではないか。図書館らしい情報提供のあり方になるかもしれないと思う。新たなものを作るのではなく、豊中の全体をきちんと把握した上で、図書館として整理しなおして市民に情報提供していく事で、結果として一種のステップアップの道筋になるかもしれないし、それを意図した情報提供もあってもいいかもしれない。

●委員

地域館で情報を集めて中央館で整理して返していくというのは、いい機能だと思う。

児童・生徒のレファレンスへの対応について、中央館に入門から専門的なものまで全ての資料が揃い、ワンストップのサービスが強みになるという話があるが、中央館に行かないとサービスを受けられないのは、子どもたちにとっては不便だと思う。今は資料の分散化が問題で中央館に揃える事でメリットもあるが、地域館での図書館本来の基本的な機能は落としてはいけない。レファレンスでは、専門的な人が中央館にいて全て中央館で揃うのであれば、それが地域館で受けられるのが理想。例えば、地域館からテレビ電話等で中央館にアクセスでき、豊中は地域館でも専門的なレファレンスが受けられるのであれば、本当の意味でもワンストップと言える。

●委員長

図書館の基本的な役割である資料提供と情報提供、貸出とレファレンスは、地域館だから片方だけでいい訳はない。地域館のレファレンスをどう組み上げていくか、中央館との役割分担や兼ね合いについて議論しなくてはいけない。どんなレファレンスでも地域館は受け、きちんとした回答を届ける事は基本に

なる。地域館の担当者と中央館がどう連携を取るのか、仕組みを作っていくのが難しい。そのためには、地域館に最低限どれくらいのレファレンスコレクションが必要か、中央館のコレクションを作るためにどこかを削らなくてはならないがその兼ね合いが難しい。どのくらいで利用者に満足していただけるのかを見ていかななくてはならない。

一方で、中央館にレファレンスコレクションを作るのは大切な事である。足を運ぶ必要はあるが、物凄く整っているレファレンスコレクションとたくさんの専門書に出会う経験も大切だ。児童・生徒のレファレンスに地域館で対応するだけでなく中央館を勧める事も必要。図書館のコレクションを目にして、これまでとは違った本に出会い大きな知的刺激を受ける経験は、中央館のコレクションがあつてこそ子どもたちに与えられる経験になる。例えば外国語の本や新聞を見て、こんなに様々な新聞がある、こんなにいろんな言葉がある事を体験する等、中央館は身近には無いけれど、子どもたちが新しい知的な体験に出会える場として必要なものと思う。

●委員

「多様な学習機会の提供」で、人材バンクや図書館のPRにも関連するが、利用者が図書館を使って日常の課題解決をした経験、どういった課題をどのように解決していったかを、市民が講師となって交流できるような機会があるとよい。アメリカでは図書館を使った成功体験が広報的にも取り上げられている。日本では図書館を使った体験をPRとして上手く活用してこなかったように思う。学びは学校だけではない。社会人になってからの学びや図書館をきっかけに自分の生きがいを見つける事もある。利用者同士の体験を聞く事で非常に刺激を得る。市民が主体となって、成果についても少し広い枠組みで捉えて、交流できるような学習機会があるといい。

今の若い世代は元々インターネットがある時代を生きているので、知識の全体的な繋がりが弱い。レファレンスや一般資料のコレクションを作つて、十進分類法を見せる、お互いの繋がりを見るというのは学習の機会としても非常に重要。学生を見ていると、言葉同士の関連性が少なくピンポイントで探している。インターネット以前の時代の書店や、図書館の書架の繋がりを見て、ブラウジングから学ぶ事も多い。図書館の情報リテラシー講座では、電子媒体とは別の観点も必要と考える。

●委員長

アメリカ図書館協会のウェブサイトでは、図書館で自分の夢が実現した事例や、移民の方々が図書館で技術や知識を身につけてアメリカ社会の中で暮らし

ていけるようになった事例が載っている。図書館の一つの力を具体例を通して示すこうした工夫が必要だ。図書館は、知識の総体の中で一冊の本の位置を確認できる、今見ている本は知識全体の中でどういった位置付けがあるかを知る非常に大切な機関である。中央館はそういった役割をより明確に示す働きを持つものになる。

続いて3枚目、「利用者に応じた図書館サービス」「市民協働事業等の推進」「職員」についてご意見をお願いします。

●委員

中央図書館の長期的なキャリアパスを意識した人材育成に非常に期待している。20～30年前と時代が変化しているが、図書館自身の基本的なあり方はそれほど大きく変わっていない。若年層利用者からみた図書館と、ある一定の年齢層より上の人が考える図書館は、求めるものが違う。人材バンク、図書館の知識の体系を見せる、資料・情報提供等全てに関連するが、新しいメディアが出てきて人の生活パターンも変わる中で、先回りして現状を把握し、図書館のあり方を打ち出せるような人材育成を検討して欲しい。

日本の図書館はキャリアパスの不在が指摘されている。専門職の議論も出てきているが、現状では日本で図書館員は専門職として社会的にも認知されていない。図書館の中でのキャリアパスを明確にし、現代的な課題に対して対応できるような人材育成を中央図書館で長期的に考えていただきたい。全国的に先駆けて豊中版のキャリアパスを構築し、全国の公共図書館に発信していただければと期待している。

●委員

豊中の図書館は、今までネットワークで市民と繋がりながら発展してきた。地域館毎の特色はあってよいので、それを中央館で把握し、さらにネットワークが育っていくといい。地域で特化して整理する事は大事だと思う。集会室、学習室、子育て支援等、地域によって必要なものは違う。南部コラボでも議論されているように、連携してカバーできる場所はお互いに適応して、根本のところは拡充、増強されればよい。豊中の図書館のこれまでの歩み、地域・市民との連携が育っていくような形が望ましい。

●委員長

豊中が持っている強みはどんなところにあるのか。

●委員

市民と近いところ。最初は特定のところと図書館だけの関係が、徐々に広がってきた。豊中市子ども読書活動推進計画やとよなかブックプラネット事業等で横に繋がりができ、利用も促進され、それが他の市民にも伝わっていく等、広がりやネットワークが形成されてきた。

●委員長

地域館の活動を中心にして、図書館と地域の利用者・市民との繋がりを強く持ってきた部分は、豊中の図書館の大きな強みと言える。広く市民全般との繋がりとはいまだ課題がある。地域館の活動をベースに長年積み上げてきた事が足腰の強さになっている。この特徴を活かしていかなくてはいけない。それがあからこそ豊中の図書館らしさがある。ネットワークを豊中全体としていかに繋げていくかがこれからの課題だ。地域館の活動の積み重ねで築いてきた市民と図書館との非常に身近なところでの繋がりを、今持っている豊中の図書館の財産として活かす事を抜きにして、中央館構想はできない。

●委員

人材育成は大事だが、それが市民にどのように還元されるのかが重要だ。新米には新米の、その時々、立場に応じた役割や強みがあり、それに対応した教育が必要だ。資格を取った図書館員や教育を積んだ図書館員が一体豊中の図書館のために何をしてくれるのかが見えない。知識や技術を積んでも、それは本当に豊中に合った教育内容なのか、豊中の人考えたカリキュラムに従ったOJTなのか。豊中市のためになるキャリアパスというのが見えない。豊中市の強みが地域との繋がりにあるのであれば、それに沿ったキャリアパスも必要になる。キャリアパスは組織毎にあり、図書館のめざすキャリアパスが何なのか分からない。

●委員長

平成29年度第2回図書館協議会資料1ではアウトカムの項目もあったが、今回は敢えて抜いている。市民にとってどういった効果があるのか書き出した上でまとめられるとよい。市民から見た時に確かに効果がある、市民にとってメリットがあるという事が把握できるようなものを、この表にあげられとよい。メリットが明確でないものは削除を考えてもいい。市民にとってどういったメリットがあるかを示せるものにしたい。

●委員

4か月児健診で絵本をプレゼントするブックスタート事業について、保護者

から「とても懐かしい」「自分が子どもの時に読んでもらった」という話をよく聞く。この事業が、子どもに本を読んであげる、保護者自身が本の楽しさに触れるきっかけにもなっていると感じる。子どもの読書離れをくい止めるプランニングでは、小さい頃から図書館や本が大好きで利用する方も多いが、中々親子でゆったり本に向き合う事が難しい方もいる。図書館は静かにしなくてはいけない所として敬遠してしまう方もいる。寝転んでくつろいだり、わいわいできるようなコーナーもあってもいいのではないか。お茶を飲みながらゆっくり本を見る、大きなスクリーンで絵本を見る等のコーナーがあっても楽しい。

こども園の年長の5歳児は調べものが大好きで、虫や植物、沖縄や戦争等、本を活用して調べている。読書離れでは、すぐに結果を知りたがる子どもたちが多いのが気になる。調べる課程を楽しむのに本は大事だ。それができるのが図書館だと思うので、季節や行事の展示等でも、調べる過程を学べる工夫があるとよい。

●委員

学校では、生徒が自分で考えて調べ、その結果を討論して新しい知識を身につける等、授業形態も変わってきている。生徒数に比してコンピュータ室が不足、インターネットの情報が信憑性のあるものかどうか中学生では判別が付かない等の理由で、調べ学習では意外とインターネットを使わない。やはり物を調べる時に書籍資料が重要になってくる。小学校の図書館は読書支援機能が大きいですが、中学校の図書館は小学校に比べてレファレンス機能が大きくなっていく。学校図書館への資料支援の需要が増す中で、学校図書館と市立図書館の調整、事業の統括という点で、中央館の役割を期待している。図書の購入については、小中学校費と図書館費で予算が別だが、人と書籍がお互いにどれだけ連携できるか。学校図書館を中央館から見て分館の1つぐらいの位置付けで捉え、書籍の提供、資料の提供、レファレンス機能の支援等、より踏み込んだ連携を期待する。今後インターネットが無くなる事はない中で、図書館の書籍資料の重要性が増してくる。市立図書館と学校図書館がもっと太いパイプで繋がる形で構想ができればと思う。

●委員長

アメリカの中学生の80%がニュースとスポンサードコンテンツの区別が付かないという調査がある。中学生はそんな形でインターネットを利用している。

●委員

とよなかブックプラネット事業では、学校と市立図書館、学校と学校をネッ

トワーク化して繋いできた。学校間の貸出も可能で、利用時期が重なる資料は小中学校間の融通もできる。必要性の高いものは調べ学習パック等で用意され、学校司書を通じて依頼すると欲しい本は2.3日で届く状況が整い、子どもたちが図書資料に触れる事ができている。

読書離れや図書館離れでは、とにかく言い続けるやり続ける、発信し続けるという事を根気強くするしかない。図書館を使った授業を学校の中では重点課題にしているが、毎回言い続けるやり続けるが大事。読書月間では2か月に渡り図書館を使った取組みをする。子どもたちが必ず手に取るのは先生が紹介した本だ。しかけ絵本を6年生に紹介すると夢中になっていた。そこから同じ作者の本や、図書館に繋がっていく。いろいろな手法で子どもたちと本を繋げる取組みをやり続けたいといけな。図書館でも意識してバックアップしてほしい。

●委員

市民との協働事業であるブックスタート事業では、図書館での人材育成を明記し、これからも力を注いでいただきたい。市民としてボランティアで参加することは、それだけの手間と時間とがかかることで、この事業の意味を踏まえた上で地域館・分館機能のところに人材育成も位置付け、責任を持って取り組んでいただけたらと思う。

利用者への直接サービスで、特に高齢者にとっては施設の整備も必要と思う。椅子の配置や図書カート等、小さい事からでも取り組み、施設の整備も重点的に考えていただきたい。

今後外国人が増えるといわれる中、多文化共生支援サービスで多いに図書館の力を発揮してほしい。地域館がしっかり機能し、隠れたニーズを把握するだけでなくアウトリーチ的なもの、外国人に図書館に来てもらうための仕組みを作っていく事が大事だ。把握の次の一手まで書いていただけたらと思う。

「市民協働事業の促進」で「地域の図書館での協働のありよう」という文言があるが、「ありよう」では消極的に感じる。「強化」でよいのでは。微妙なニュアンスが気になる。

●委員長

ニーズの把握は、図書館で待っているだけではなく、図書館員が地域活動の場へ出て実際に見聞きしてニーズを実感する事も含まれる。積極的な形のニーズ把握は地域館でなければできない。他にご意見は。

●委員

今までに一緒に仕事をした学校司書は皆さん優秀で、何を聞いても必ず応えが返ってきた。人材育成でイメージしたのは、本の事で市民の方に何を聞かれても応えられるような人だと思う。

●委員

外国人のサービスで日本語習得用の資料収集と書いてあるが、近くに国立民族博物館があるので資料の貸し借りの融通はできないか。国立民族博物館は人材も資料も揃っている。

●委員長

その他の機関との連携の中で考えていく。

次回までに今日の議論をまとめた上で、1月の協議会で整理し全体的な方向性を出していきたい。その後事務局で素案を作成し、3月の会議でまとめる。その他事務局から報告を。

●事務局

「庄内地域における『魅力ある学校』づくり通信第8号」について説明。
平成30年7月より10月にわたって「義務教育学校・(仮称)北校と(仮称)南部コラボセンターの設計に向けたワークショップ2018」が学校関係者を対象に4回、地域・市民を対象に4回行われた。建築の前提条件の見直しがあり、北側の道路について拡張されたことから建築可能な面積の広がりがあり、当初予定していた北側道路に面して東西に長く南部コラボセンターを建築する案に加えて、南北に長い案も含め多様な案を検討した。現在のところ北側道路に面して、(仮称)北校の顔となるエントランスが見えることが必要という意見もあり、西側に北校の校舎と運動場、東側の道路に面しているところにコラボセンターを南北に配置した設計案を中心に検討を進めている。今年度中に基本設計、次年度が詳細設計となり、図書館についてはコラボセンターの2階に児童、成人室も含めたワンフロアとなる予定。

●事務局

「YA!BOOKS 通信 Vol.17」について説明。
千里図書館のYAボランティアグループ「YAらぼ」は、中学生から社会人まで7名が登録し、YA!BOOKS通信の作成、乳幼児に向けた冬のおたのしみ会の企画運営、YAコーナーの飾りつけや展示等の活動をしている。毎月定例の集会日を決め、可能な範囲で参加する自由なスタイルで、高校生、大学生、社会人まで継続しての参加も多い。友達と一緒にではなく個人での登録が多い事も図書

館ならでは。YA!BOOKS 通信は、各図書館、市内の小中学校、高等学校、千里図書館近隣の書店やコンビニにも配布している。

「豊中市の図書館活動Ⅰ・Ⅱ平成29年度（2017年度）版」について説明。前年度の図書館の運営・事業について、「報告編」と「統計・資料編」としてまとめている。「報告編」は、昨年度の図書館事業について、その年度のトピックス、地域・市民との協働、子ども読書活動推進計画、事業報告等の内容でまとめている。情報発信ではマスコミ等からの取材、アウトリーチとしての出前講座や講師派遣、図書館協議会の報告、グランドデザインの進捗状況も載せている。「統計・資料編」は、予算、蔵書や貸出の状況等を数値で表した内容で、豊中市立図書館評価システムの評価項目表、図書館の歩みの年表も掲載している。広く市民の方に図書館の取組みを知ってもらえたらと思っている。ご意見等ありましたらお願いします。

●委員長

質問等はよろしいか。以上で閉会いたします。